

平成26年 7月10日

視 察 報 告 書

八街市議会議長 林 修三 様

会派の名称 やちまた21
代表者名 加藤 弘

政務活動費による行政視察を行いましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1. 日 程 平成26年 7月 8日 (火) ~ 7月10日 (木)

2. 視察地及び視察項目

日 程	視 察 地	視 察 項 目
・7・ 8	徳島県勝浦郡上勝町	ゼロ・ウェイストアカデミー・木質バイオマス
・7・ 9	上勝町	彩事業
・7・ 10	徳島県名西郡神山町	移住支援. IT企業誘致. 人材育成

3. 参加者 加藤 弘 林 政男



4. 参加者全員で撮影した写真を貼付してください



5. 視察内容等

7/8 徳島県勝浦郡上勝町では、午後2時から町議会議員である渡辺厚子氏よりゼロ・ウェイスト アカデミーの教示を頂き、ごみ減量化、資源ごみの有効利用について詳しく説明を受けました。上勝町では、分別収集によりゴミゼロに限りなく近づいています。家庭の野菜ごみは、たい肥化しているそうです。この活動の問題点は、年配者には細かい分別方法が、分かりづらいとのことでした。しかし、粘り強く指導しているそうです。

次に、場所を移動して月ヶ谷温泉の木質バイオマス事業を株式会社かみかついっきゅうの支配人の鶴代修一氏により温熱ボイラーの説明を受けました。

1億3千万円の事業で機械は、ヨーロッパから直輸入し、主に間伐材を燃料源にしています。近年、林業不振のより専門業者からチップを購入しているそうです。稼働率は7割で事業は成功しているとのことでした。

7/9 午前10時から彩事業について学びました。視察担当の株式会社 谷 健太氏からいろいろ説明を受けました。全国から視察が殺到し年間250団体を案内している。葉っぱのビジネスで年間売上2億5000万円、農協が主となり組合員200名、平均年齢70歳以上、全員が、携帯、パソコンを所有し、しかも光ケーブルで結ばれている。現地で農協の出荷風景に立ち会う機会がありました。お年寄りの生き生きとした姿が印象に残りました。地域資源を活かし、創意工夫すれば町興しは出来る典型的な成功事例でした。それぞれの地域の特性を知り、優れたリーダーが出現すれば、成功する確信を得ました。

5. 視察内容等

7/10 午前10時 台風の中、神山町の農村環境改善センターに到着。KVSOC（神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス）の木内 康勝氏に案内して頂いた。

今回の視察の主眼である人口減にいかに対処するか、その問題に取り組む成果を上げている神山町を具に拝見してきた。神山町の『地域おこし協力隊』は、移住支援・IT企業誘致・人材育成を掲げ、その中心となっているのが、NPO法人グリーンバレーです。木内氏の案内で、東京から進出しているIT企業のオフィス（古民家を改造）にお邪魔しパソコンのモニターを覗くプログラマー達の働く様子を見学しました。聞くところによると東京からこちらに働きに来た人もいますが、ほとんどは徳島市内から通うもの、神山に住む若者たちが中心だという。若者の雇用確保により人口減少問題対策につながり、まちの活性化にも活きている。移住支援でも古民家空き家情報などをアップして募集している。現在では、空民家がない状態だそうです。町は、移住者のための町営住宅を建設し、移住促進を図っている。その他婚活プロジェクトも積極的に展開し、かなりの成果が出ているそうです。

グリーンバレーの理事長である大南 信也氏のお話を聞くことが出来ました。氏によれば、第3セクターである農村環境改善センターが、神山町から委託を受け、これらの事業を進めてきた。町興しは、当初、芸術村を目指したそうです。高名な芸術家を招聘し、神山町に移住してもらえば、町の利益にもつながる。大きな工場、会社の誘致は難しい。そこで思いついたのは、移っている人に移住してもらうことだった。

芸術家の招聘は、まずまずであったのだが、切り札とはならなかった。町の活性化として取り組んだのが、IT企業の誘致であった。IT企業と言っても工場ではなくソフト産業の誘致であった。大きな工場や大きなオフィスもいない、しかも若いSEを地元雇用することになれば、人口の流出を防げるばかりでなく、地域の活性化にもなった。

神山町の取り組みは、全国から注目を浴びている、その中心人物が大南理事長でした。氏いわく、行政の先取りの形でNPOがここまで来ましたが、今後は、行政の若い職員と神山町を挙げて取り組んでいきますということでした。

「いづれにしても、」よそ者、若者、変わり者、馬鹿者と言われる人たちがいなければ変革は起きない。神山町は、その典型です。徳島の山の中で新しい町づくりが進んでいます。